

SHOW HEY シネマール

★★★

花咲くころ

2013年ジョージア(グルジア)・ドイツ・フランス合作映画
配給: パンドラ/102分

2018(平成30)年3月29日鑑賞

テアトル梅田

Data

監督: ナナ・エクフティミシュヴィ
リ/ジモン・グロス

脚本: ナナ・エクフティミシュヴィ
リ

出演: リカ・バブルアニ/マリア
ム・ボケリア/ズラブ・ゴガラゼ/
ダタ・ザカレイシュヴィリ/アナ・
ニジャラゼ/マイコ・ニヌア/タマ
ル・プフニカシュビリ/テミコ・チ
テナゼ/ベルタ・ハバ/サンド
ロ・シャンシアシュビリ/エンデ
イ・ジザバ/ザザ・サリア

■ショートコメント■

◆公式ホームページによれば、本作の「解説」は次の通りだ。

世界中で数多くの受賞に輝くジョージア(グルジア)映画の新しい風
伝統あるジョージア(グルジア)映画は『放浪の画家 ピロスマニ』『落葉』等、数々の名
作を生んできたが、1991年にソ連邦から独立後、内戦、紛争が次々と起こり、社会も経
済も大きな打撃を受けて、国内は荒廃し、輝かしい映画の伝統は断たれた。しかし近年、
映画は見事に復活をとげてゆく。新しい世代の作品が、世界の映画祭で数多くの受賞を
果たしていった。

戦火の不安のなかで 強くのびやかに生きる少女たちを清冽に描く

『花咲くころ』は、ベルリン国際映画祭国際アートシアター連盟賞を初め、世界中の映
画祭で高く評価され、30もの受賞を果たした。ジョージア国内が混乱した1992年の春
から初夏にかけて、首都トビリシを舞台に、14歳の少女ふたりの成長を清冽な映像で描
いている。市民が対立した内戦は、人々に大きな禍根を残した。しかし社会に不安がた
ちこめていても、ふたりの少女はつよい絆で結ばれ、春の日差しのようにのびやかだ。
愛の歌をうたい、驟雨のなかを駆けぬける彼女たちの日々はみずみずしく美しい。

澄んだ眼差しで見つめる ジョージアの忘れてはならない時代

監督はナナ・エクフティミシュヴィリとドイツ出身のジモン・グロス。近年、ジョー
ジアは女性監督の躍進が目覚しく、エクフティミシュヴィリ監督はその先頭に立つ。彼女
の少女時代の思い出をもとに脚本は書かれ、映画は厳しい時代を生きる庶民の表情を映
すとともに、戦争や暴力の不毛さ、女性の権利についても主張する。少女のひとりエカ
の、周囲の大人たちの心を見つめる澄んだ眼差し。祝宴で突然踊りだす彼女の無言の思
いが胸を打つ。主役に抜擢された少女たちは、サラエボ映画祭で見事に最優秀主演女優
賞に輝いた。

◆公式ホームページによれば、本作の「物語」は次の通りだ。

1992年春、独立後に起こった内戦のきな臭さが残るジョージアの首都トビリシ。父親が不在のエカは母親と姉の干渉に反発を感じている。親友のナティアの家庭はアル中の父親のためにすさんでいた。生活物資は不足しがちで配給には行列ができていて、ふたりにとっては楽しいおしゃべりの時間だった。ナティアはふたりの少年から好意を寄せられている。ある日、ナティアはそのひとりラドから弾丸が入った銃を贈られた……

◆エカ・ヒザニシュヴィリ（リカ・バブルアニ）とナティア・ザリゼ（マリアム・ボケリア）という美しく瑞々しい2人の少女は共に14歳。しかし、彼女らの国は共に大変。時代も大変。さらに、父親も家族も大人たちも大変だ。しかし、彼女たちの生きざまは……？

◆2人の女性監督の“体験談”に基づく脚本はたしかに多くの問題提起をしてくれる。岩波ホールは次のように「ご挨拶」をしているが、そのこともよくわかる。しかし、私にはイマイチ納得感がなかったが……？

岩波ホール創立50周年記念作品第1弾として、ジョージア（グルジア）映画『花咲くころ』を公開いたします。この作品には、女性監督の視点、戦争や暴力へのアンチテーゼ、第三世界の主張など、岩波ホールがこれまで積極的にご紹介してきた上映作品への思いが、新しい世代によって表現されています。今日、紛争は世界に拡がり、社会は混迷を深めています。少女たちのたおやかに生きる姿をとおして、時代の明日へ思いを深めていただければ幸いです。